

# 高温に伴う農作業安全および農作物技術対策について

平成 26 年 8 月 1 日  
福井県農業総合指導推進会議

## 1 農作業安全

農作業中の熱中症対策として、管理作業は、高温下での長時間作業を避け、涼しい時間帯に行う。帽子を被り、通気性の良い衣類を着用する。また、無理な作業は避け、水分をこまめに摂り休憩を十分に取るなど健康管理に注意する。

もし体調不良を感じたら、すぐに涼しい場所で安静にし、水分、塩分を補給する。衣類をゆるめ、脇の下、首筋、股の付け根などに濡れタオル等を当て出来る限り体温を下げる。

## 2 水 稻

- ・高温により田面や稲体からの蒸発散が大きいいため、きめ細かい水管理（間断通水：2～3日に1回）を行う。常時湛水や表面の土が白く乾くまで干すことは、根を傷め、活力低下を招くので行わない。
- ・現在コシヒカリの出穂期を迎えているので、収量・品質の低下を防ぐために、出穂前後の通水管理、収穫前の早期落水防止等の水管理を徹底する。
- ・フェーン現象や強風の日は終日深水管理とする。これらが収まったら直ちに落水する。

## 3 大 豆

- ・圃場が過乾燥になると落花、落莢、不稔莢の増加、百粒重の低下等を引き起こし、青立ち株の発生、収量低下につながるため、必要に応じて畝間かん水を行う。
- ・畝間かん水開始の目安は、1週間以上降雨がなく圃場の溝の面が白く乾いた時とする。土壤乾燥で葉が裏返って白い葉裏が見えるようになる前にかん水を始める。なお、排水の悪い圃場では、逆効果となるため行わない。
- ・かん水の時刻は地温の低い夕方または早朝に行い、7日間隔を目安とする。日中に長時間滞水すると水温上昇で生育を阻害するので、短時間に終えるようにする。

## 4 野 菜

- ・施設（ハウス）に遮光資材を被覆（特に日中の高温時間帯）し、施設内温度、作物体温、地温を下げる。
- ・連棟ハウスでは谷部のビニールを広く開放する。

## 5 畜 産

- ・畜舎内換気に気をつけ、扇風機や換気扇、通風ダクトの活用により畜舎内に風の流れを作るとともに、状況に応じ、屋根や畜舎周辺に散水を行う。